

# まえがき

学長 松 藤 千 弥

『東京慈恵会医科大学教育・研究年報 2019 年度版（令和元年度版）』を刊行いたします。

2019 年度、本学では「医学・看護学の教育・研究とその実践を通して人類の健康と福祉に貢献する」という理念のもと、教育・研究活動に取り組みました。

教育面では、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーに基づいた改革を進めました。医学科では、世界標準の医学教育と卒前・卒後教育の連動を課題として、臨床実習の拡充、アウトカム基盤型の教育体制の整備に取り組んでいます。看護学科では、問題解決能力と地域連携能力の涵養に重点を置いたカリキュラムを導入しています。看護学専攻大学院では、2019 年 4 月に博士課程が開始され、看護学高等教育が学士から博士まで整備されました。研究面では、先端的かつ特色ある研究の促進、研究倫理教育、外部競争的資金の活用、学内・学外連携により、医学・看護学研究の推進を図りました。

2020 年 1 月には、西新橋キャンパスに新外来棟と母子医療センターが開院し、病院における教育・研究機能も強化されました。新外来棟には、セルプロセッシングセンター（CPC）が設置され、未来医療の拠点となることが期待されます。

2019 年度は、学祖・高木兼寛先生の生誕 170 年に当たります。9 月には、高木先生の生誕地である宮崎市にて高木兼寛顕彰会・宮崎市の主催で講演会・式典・祝賀会が、6 月と 9 月には本学にて記念講演会が開催されました。また、3 月には宮崎大学と包括的連携協定を締結し、教育面、研究面での連携を深める予定です。各行事を通し、本学の建学の精神である「病気を診ずして病人を診よ」への理解を深めております。

年度末には、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、次年度 4 月からの遠隔授業のための教材作成に対応しました。

本年報には、2019 年度の各講座・研究施設における教育・研究活動の概要が報告されています。教育・研究活動の発展と学内連携の強化の促進のために、本年報が活用されることを願っております。

最後になりますが、本年報の刊行にあたり、執筆、編集にご尽力いただいた関係各位にお礼申し上げます。